

ヒアリング調査経過報告

【実施概要】

1. 目的

実効性のある計画策定に向けて、市内事業者、商店会、大学等を対象に、産業振興の各分野における実態と今後の課題等を把握し、第2次産業振興マスタープラン策定の基礎資料として活用する。

2. 調査内容

(1) 現状と課題

事業環境を取り巻く状況の変化や今後取組みたいこと、取組むにあたり必要な支援・仕組みに関する意見や要望、事業者側から地域に協力できること等を把握する。事業を進めていく上で、人材の確保・育成に関することや後継者問題が経営等に及ぼしている影響等について把握する。

(2) 産業振興に向けてのアイデア

特に、行政や事業者間、大学、研究機関との連携に関する意向を把握する。

3. 調査スケジュール

対象	ヒアリング先	ヒアリング日時	ヒアリング場所
A ものづくり等事業者	7社参加	2月2日(木) 16:00~17:30	イングビル 3階会議室
B 商業・サービス等事業者	8社参加	2月2日(木) 13:00~14:30	イングビル 3階会議室
C 商店会	13商店会	2月9日(木) 18:30~20:00	田無第二庁舎 4階会議室
D 大学・研究機関	D-① 多摩六都科学館	2月9日(木) 15:30~17:00	多摩六都科学館
	D-② 亜細亜大学	2月7日(火) 14:00~15:30	亜細亜大学 武蔵野キャンパス
	D-③ 武蔵野大学	2月7日(火) 10:00~11:30	武蔵野大学 武蔵野キャンパス
E 起業・創業	5社参加 予定	2月22日(水) 10:00~11:00	イングビル 3階会議室

西東京市第2次産業振興マスタープラン策定に係るヒアリング調査実施結果

対象	現状と課題		
A ものづくり 等事業者	<p>【①事業者の現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰の影響が大きい、値上げを認めてもらえない（※企業による） ・他社にできない仕事は、価格交渉力が高い ・事業承継が課題 ・技術の継承をしなければいけない ・人材確保が一番の課題 ・新卒ではなく中途採用している ・コロナで仕事が減っている ・SDGs はビジネスチャンスになる ・中小企業振興公社から販路開拓をサポートする人が来てくれる ・商工会に入ったことで、仕事が増えた 	<p>【②西東京市の現状と課題】</p> <p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心に出やすい。駅が広くて大きい ・商工会から協業先を紹介してもらった。頼れる企業が多い ・田無のデメリットはあまり感じたことがない <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同業や類似事業者などが近くにいないので、連携したい ・中央線沿線の人が、田無を知らない。近いにも関わらずイメージできないようである ・西東京市という名前になったことが残念 ・歩道が狭くて歩きづらい ・ホテルやお酒を楽しめる個人店、接待をする場所が市内に少ない <p><連携状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会のイベントに参加したら、自社商品の評判が良かった ・地域の企業との連携はやったことがない（※事業者による） ・中学校からの見学会の依頼はある。地域の人に知ってもらうことは、経営にとっても重要 	
B 商業・サービス 等事業者	<p>【①事業者の現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後で飲食店にまだ人が戻ってきていない ・コロナで人が集まる事業がやりづらい ・新しい事業の今後の発展が課題 ・お客さんにどう知ってもらうかが課題 ・年配の方に情報を伝えていくのは大変。高齢者は口コミで情報を得ている ・人材確保が大きな課題。飲食店で賃金を高くして募集しても集まらない。3～4年くらい前から集まりにくくなっている。賃金上昇の影響もある ・人材の育成も課題 ・物価高騰が大きな課題。BtoCだと特に価格転嫁ができない ・販路拡大が課題 ・DX化を進めている（※事業者による） ・事業者の連携の面で、市民祭りの影響は大きかった ・市の支援策をそもそも知らない 	<p>【②西東京市の現状と課題】</p> <p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の一番は、「都心に近い」こと。 ・駅が市内に5つあることは、大きなポテンシャル ・美味しいラーメン店がある <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の人に西東京市のことが知られていない ・大手企業や大学が外へ出ていってしまった ・「西東京市ブランドといえばこれ！」というものがない 	
C 商店会	<p>【①商店会及び事業者の現状と課題】</p> <p><会員加入、閉業、事業承継、高齢化、空き店舗></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店会の加入率が低い。新規店舗が会員にならない ・高齢化や事業承継、若手の育成が課題。店舗が閉業し、会員数が減少 ・お店が商売を止めて、テナント貸しに変わっている ・商店街が住宅などで歯抜けになってきている ・会員になるメリットを聞かれても、納得させられるメリットが打ち出せない ・空き店舗が少ない地域と、空き店舗対策が急務の地域がある ・学生に空き店舗を使ってもらうにも、商店会より貸主の意向が大きい <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを作っていない 	<p><連携について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や学生との連携は全くない ・新しい住民との交流ができていない ・コロナでコミュニケーションが減った ・市の情報推進課と武蔵野大学の学生がやっている事業で、高齢者向けのスマホ教室などを開催予定 <p><新規の取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来のやり方を踏襲していて、何か新しいことをしなければと考えてはいるが、なかなかアイデアが出てこない ・現在のメイン顧客がシニアで、新しい顧客層の獲得が課題 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ、物価高騰の影響が大きい。先行きがまだ見えない ・イルミネーションを実施する許可が下りなかった ・生鮮を扱うお店が商店会にない 	<p>【②西東京市の現状と課題】</p> <p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・田無駅というターミナルがあることはメリット ・大泉学園とひばりが丘は家賃が高いが、保谷は安い ・15時～19時に歩行者天国を実施している <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市境の商店会では、住所が異なるとお金の出所が異なって足並みが揃わず困ることがある ・駅前開発で住民には良くても、店舗には不利益になっていることがある ・線路で駅の南北が分断されている。踏切は緊急車両も困る

対象	現状と課題	
D 大学・研究機関 多摩六都科学館	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多摩六都科学館は、第2次基本計画の内容に沿って活動をしている 地域資源の活用や魅力発信を行う地域拠点事業と科学館事業がある 「市民感謝デー」における多摩六都グルメフェスティバルや、「たまろくとウィーク」を開催し、構成市の飲食事業者に来てもらうなどの連携を行っている 常設の展示室の「つながるスポット」では、地域内の大学・企業のつながりの展示をしている 科学館はどうしても子供向けの印象があるので、大人が興味を持つような事業を実施している 東大農場との連携やまち歩きも行っている 多摩六都科学館のミッションは、「多様な学びの場の創出」と多くの方に体験の場を提供する「生涯学習施設」である。その中で、地域づくりや地元にも愛される施設を意識している 施設の利用者は3分の1が圏域市の人 講座を科学館内で年間約200講座、地域に出たの講座を約50回行っている。総参加者数は、来館者の約1割。現在の来館者数は約16万人 地域とのつながりは、ボランティアの存在が大きい 商店街との連携はいまのところない 連携に関しては、5市のバランスや公平を考えなければいけない 	
D 大学・研究機関 亜細亜大学	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学として西東京市に関わることは特にはない。西東京市に来る学生は少ないと思われる 西東京市に限らず、地域にどう貢献できるのか、という視点で大学としては関わっている アパートで武蔵野市に住んでいる学生と実家から通う学生とは半々くらい。西東京市から来ている学生もいる 大学でも、専門分野によって、地域との関わり方が全然違う 学生は、地元の仲間と遊びたいというニーズが強く、絆が強い 	
D 大学・研究機関 武蔵野大学	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 西東京市に住み、学生として起業して、全国でも注目を集めるプロジェクトをしている。西東京市発のプロジェクトで多くの取材を受けているが、西東京市からはまだ取材がない 大学の教員が行うプロジェクトに学生や西東京市をはじめとした住民の方が参加している。西東京市の地域とのつながりはその程度しかない 学生はSDGs、まちづくりに興味のある人が多い 当学部（アントレプレナーシップ学部）は卒論がなく、起業することが最終目標。多くの学生は、何で起業すればよいか悩んでいる 西東京市は幅広い世代がいて、人口も多いので、大学の活動のフィールドとしてよい 学生の半分は西東京市内に住んでいる 	
E 起業・創業	※今後ヒアリング調査予定	※今後ヒアリング調査予定

対象	産業振興に向けたアイデア		
A ものづくり 等事業者	【人口増や雇用の場、集客の仕組みが必要】 <ul style="list-style-type: none"> 上場企業の誘致をする 商店街に駐車場が必要 交通の便がよく、多くの自動車が通るので、通過ではなく止まってもらう工夫をする。道の駅や野菜の即売所など、西東京市を休憩スポットにして、食事や消費をしてもらう。 大企業と連携をする 	【創業支援、やる気のある人がチャレンジできる仕組み】 <ul style="list-style-type: none"> 金融機関に頼らない資金調達が必要 30～40代の人が出店できるような仕組みを作る 西東京市が創業に力を入れていることを、もっとPRする 空き店舗を無料で貸す代わりに、売上の数%をもらう貸し方をしてはどうか。若い人がチャレンジできる仕組みを作る 「いろんな挑戦ができる街・西東京市」としてPRする 	【ブランド化、テーマを絞った取組み】 <ul style="list-style-type: none"> 特産物があれば、西東京市を知ってもらえる 高い野菜や果物など、食のブランド化をする 田舎でもないし、都心でもない、という西東京の良さを生かしたまちづくりをする パワースポットを推す 正しさより、楽しさ、を重要視する
	【SDGs、DX、環境変化や未来を見据えた新しい需要への対応】 <ul style="list-style-type: none"> AIへの対応をする ITは生産性が高く、場所が不要なので、その支援もよい 「未来をつくる西東京市」「未来の日本の縮図を目指す西東京市」としてPRする 「未来をちゃんと見据えている西東京市」と言えるようにする。空飛ぶ車、ドローン、自動運転、老人医療など 農商工の融合事業で、捨ててしまう農産物を活用してSDGsにも合致した食料を開発する 	【情報発信】 <ul style="list-style-type: none"> 動画を使うと、伝わりやすく、情報発信によい Youtubeやインスタを活用する 「GO WEST」というテーマ曲を作る 	【その他】 <ul style="list-style-type: none"> 買い物弱者の問題解決をする 商店街で主婦の意見を聞く 市内の人たちが少しずつ関わっていけることをする
B 商業・サービス 等事業者	【人口増や雇用の場、集客の仕組みが必要】 <ul style="list-style-type: none"> 西東京市に「住んでもらう」ことをゴールにする 企業誘致を行う 職住近接の視点は大事 まちに魅力がないと住む町として選ばれなくなってくる 	【連携】 <ul style="list-style-type: none"> 市内の事業者の仕事が回るように、人材紹介などのサービスを作る 事業者の交流会を開催する。市の主催だと安心できる 協力できる事業者を募集する場など、困っていることを発信していける場を作る 事業者の連携のハブを作る 事業者の紹介については、商工会ができる 課題解決を事業者が連携して行うことが重要 事業者からこうした意見を吸い上げることはよいが、聞いただけでなく、その後のプロセスが大事 	【ブランド化、テーマを絞った取組み】 <ul style="list-style-type: none"> インバウンドは有効。神社とかアニメとか、海外に強いコンテンツが西東京市にはある 健康推進都市を進めているが、その軸でよい ターゲットを絞ってどこかに決める 1つ食のブランドをつくる キャベツをもっと推す 「これだけはやろう」ということを、優先順位をつけて、具体的にする
	【SDGs、DX、環境変化や未来を見据えた新しい需要への対応】 <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税を活用する まちの課題をどう解決するか、という視点を持つ ゼロカーボンシティはまちの産業と一緒に考えるべき大事な視点である 【地域資源の活用】 <ul style="list-style-type: none"> 多摩六都科学館など、既にあるものをうまく使う 地元の声を政策に入れる 	【情報発信】 <ul style="list-style-type: none"> もっと西東京市の知名度を上げる必要がある。情報発信が必要 インフルエンサーを育成する。市の職員がYoutuberになってはどうか 産業に関する情報発信は、商工会がやる必要がある 自分から情報を取りに来ない事業者に、どうやって情報を届けるか考える必要がある 	【その他】 <ul style="list-style-type: none"> 全部の商店街がまとまるなど、市全体でやる事業があると良い 急速冷凍技術が上がっており、シェア冷凍庫を使った商品開発を考える 子供たちを巻き込んだまちづくりをする 個人事業者は雇用の仕方が分からないので、その支援が必要

対象	産業振興に向けたアイデア		
C 商店会	<p>【会員増加、会員メリットの明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 商店会会員になるメリットを明確にして、会員数を増やす ⇒イベントをやるために、商店会をやっているのではない • 会員のメリットを説明する資料をつくる • 若い人も参加しやすくするために、商店会の透明性を高めて、だれでも運営できるようにする。 • 会員の事業を消費者に知ってもらう取組みとして、会員間のコマーシャル（会員の顧客同士への紹介）をインスタやLINE を使って行う • 会員になってもらうように、まずは声掛けをする（声掛けしていないところもある） • 合併によって会員数の母体を大きくする 	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 商店会個々でホームページをつくるのではなく、市や商工会で親となるホームページをつくって、各商店会はその中に入る ⇒消費者は個々のお店にアクセスするのではない • ホームページに商店会の情報だけでなく、地域の神社やまち歩きをしてもらえような、住民に役立つ情報も掲載する • メディア露出など、市が主導する事業も大事 • 商店会内の連絡体制に SNS を使う • インフルエンサーをPR に使う • ゲーム性を持たせた情報発信を行う（謎解きゲームでQRコードを読ませるなど） • 高齢者にはデジタルだけでなく、紙でも情報を伝える • 商店会や地域団体の日を、西東京市で独自に記念日として決めて、FMなどで「今日は〇〇の日」と紹介してもらう 	<p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 商店会の会員店舗が、別の店舗や商店会を紹介する仕組みをつくる • 合併により、今まで知らなかった店舗同士が知り合いになる • 無理に会員店舗にイベントをやってもらうのではなく、住民や学生にイベント運営を手伝ってもらう • 市境の商店会では、他市の事業者と連携できる機会をつくる • 今回のような、商店会同士が話し合う場を継続して開催する • 行政が異なっても、補助金は一緒に出してもらう <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> • これからはキャッシュレスとFree-Wifiが必要 • 新しくできる公園を、商店会のイベントなどでうまく活用する • 狭い道の解消などハード整備が必要 • イベントの補助事業について、連続で行うイベントについては1つの事業として見てもらう
D 大学・研究機関 多摩六都科学館	<ul style="list-style-type: none"> • 半年前までに相談すれば、市や地域の事業者と連携して講座を行うことができる • 科学館の集客を考えると、アクセスの課題が大きい。はなバスの本数が2年前から半分になった。小平市などにある便利なシェアサイクルで、アクセス面の改善になるかもしれない • 科学館のインフォメーションの裏に地域情報のチラシなどを置くスペースがあるので、そこに情報を置くことができる • 産業窓口となれるような専任のスタッフが科学館にいれば、産業振興の取組みをもう少し進められる 		
D 大学・研究機関 亜細亜大学	<p>【学生が学ぶ場、活動する場、集まる場の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 宿泊などの負担がない身近な場所で、活動できる場があると良い • 空いている商店会の1店舗を使う、ということは考えられる • みんなで集まれる場、他の学生と交流できる場があるとよい • 小さな企業でもよいので、アルバイトではなくインターンシップとして受け入れてくれる企業が西東京市にあるとよい 	<p>【観光振興、商店街振興のアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 観光振興には、聖地巡礼という方法がある。好きなYoutuberがいて、その撮影地を訪れる人がいる • 観光振興にはコンテンツが大事。回遊するようなコンテンツや定住するという発想もよい • 空き家対策については、ワーケーションを楽しむという視点がある • 西東京市の良さである住環境と観光をリンクさせる • 廃校を使ってテーマパークにする • おしゃれやインスタ映えは重要 • ママ友が集まれるような、長居ができる場所があるとよい • 大きなイベントもよいが、小さいイベントの定期的な開催も重要 • 小中学校に商店街のチラシを置く • クルマが通れない商店街がよい 	<p>【その他の学生のニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクセスしやすくして、1日遊べるような場所があるとよい • お祭りがあれば、学校帰りに、多くの学生が行きたくなると思う • お店で現金だけと言われると困ることがある。キャッシュレスを使えるかはお店に入る前を見る • 一人席があるカフェなどの勉強がしやすい場所や長居ができる場所があるとよい <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学の機能として、研究、教育、社会貢献、の3つがある。企業に依頼するとフィーの問題があるが、フィーがなくても研究、教育で大学は関わることができる • 大学に入学しても6～7%は辞めていくので、アンマッチを防ぐために高大連携を考えて欲しい
D 大学・研究機関 武蔵野大学	<p>【大学・学生と地域の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学生は活動の場を求めており、ボランティア活動等も積極的に行うので、もっと活用してほしい • 空き家の利活用で大学が関わることは考えられる • 学生はやりたいことがいっぱいあるが、活動できる場所がない。空き店舗を1週間でもいいので貸してほしい • 商店会と今後連携するのであれば、大学の学部と一緒にやることも考えられる • お店のお手伝いをしたら商品券をもらえとかの話があれば、学生はよく行くようになると思う 	<p>【地域連携以外の学生のニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学生は、球技をできる、ボールを蹴れる公園が欲しい • 学生の半分は奨学金をもらっているなど、いまは本当にお金がない学生が多く、深刻である ⇒西東京市のゴミの有料化は学生にとってつらい ⇒フードバンクを大学生に配って欲しい ⇒飲食や買い物で学割があれば、うれしい。 • 学生としては、大人から相談される場があるとやりがいを感じる • 法人登記費用の補助があるとうれしい。 • 確定申告を教えてくれる支援があるとよい • 若者は現金をもっていない人が多いのでキャッシュレスにしてほしい。現金のみだと、支払時にお金を下ろしにいくこともある 	<p>【テーマを絞った取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 行政は尖れないのじゃないかと思うが、ターゲットを明確にして取り組まないと誰にも届かないのではないかと • 大学生に特化したまちづくりにしてはどうか。若い人が多いまちに若い人は住みたくなる。 • 若者を推す町にするのなら、メールはよりLINEやSNSを使ってほしい
E 起業・創業	※今後ヒアリング調査予定		